

国 語 科

国語科研究主題

言語感覚を磨き、課題設定能力を高める国語科授業の探究

公開授業 学級：1年3組 授業者：岩田 美穂

単元名：探究で広げる比喩の世界

(教材名：『比喩で広がる言葉の世界』 光村図書)

授業の見どころ① 言語感覚を磨く。比喩の沼につかる。

私たちの生活の中から比喩がなくなったら……そんな世界が想像できないくらい私たちの生活に比喩はしみ渡っています。そんな身近な「比喩」なのに、生徒たちは「比喩は、直喩や隠喩で、詩でよく使われる表現技法だ」くらいにしか思っていない。だから、比喩を取っ掛かりとして、自分の中にある言葉や、自分の周りにある言葉と本気に向き合い、言語感覚を磨いてほしいという思いを込めて、この単元を考えました。

最近、「沼にはまる」という表現がインターネットを発端として広がっています。これは、「沼」は泥がたまっている場所であり、入ってしまうと身動きがとれなくなることから、「夢中になって抜け出せなくなる」ということを表す比喩表現です。ネットスラングや若者言葉も比喩の発想がもとになっていることもあります。比喩の沼にどっぷりつかり、比喩や言葉の魅力に夢中になってしまうような授業を目指します。

授業の見どころ② 「質問づくり」で課題設定

今回は、「比喩」をテーマに探究学習を仕組みます。探究学習は、生徒が自ら問いを立て、その問いを探究していくという学習活動です。この学習の魅力の一つは、生徒が自分の興味のある課題を設定し、主体的に学ぶことができることです。前研究では、「選択」により主体性を引き出すということに取り組みましたが、まさにこれにも通じる部分です。しかし、この学習の最大の難関は、「課題を設定する」ということです。主体性を引き出し楽しく学ぶための選択の余地が、生徒を苦しめることになってしまう……。でも、課題さえ設定することができれば、主体的に学ぶことができる。ということは、課題設定の手法を生徒が身に付けることが必要だと考えました。

そこで、今回はダン・ロススタインの「質問作り」の手法を取り入れます。質問作りのステップを踏むことで、問いを磨き、課題設定の能力を高めることにつなげていきたいと考えています。